

慈明院寺報九月号

はみ はなみ
葉見ず、花見ず



残暑厳しいこの頃、九月・秋のお彼岸が近くなってきた。猛暑続きだった今年の夏、暑さ寒さも彼岸まで、お彼岸がくるのがなんとも待ち遠しい。

この秋の彼岸には、彼岸花の燃えるような赤色で、田の畦道が彩られる。彼岸花は別名「曼珠沙華」とも呼ばれ、仏の功德をあらわす伝説上の赤い華のことをさす。ある時お釈迦様が説法を始めると、天がその説法のありがたさに感じ入り甘露の雨を降らせた。すると地上に真つ赤な華が咲き乱れ、見る者の固く閉ざされた心を柔軟にしたという。この故事から彼岸花は「柔軟華」とも漢訳されるそうだ。

彼岸花には約千の別名があり、そのひとつが「葉見ず、花見ず」である。彼岸花の花は一週間ほどで茎とともに枯れてしまう。その後、球根から葉を伸ばし、冬の間に葉を茂らせる。茂らせた葉で、春から栄養を球根に蓄えていく。しかし、植物が元氣いっぱい夏には、彼岸花の葉は枯れてしまう。そして秋のお彼岸に一気に茎を伸ばして、一週間だけの花を咲かせるのである。このサイクルから、「葉見ず、花見ず」という呼び名ができた。また葉は花を想い、花は葉を想うという意味で「相思花」という異名もある。

もうひとつこの花には不思議な事がある。彼岸花は鱗茎と呼ばれる地下茎で繁殖している。つまり花を咲かせて蜜で昆虫を集め、受粉作用を助けてもらう必要がないのである。しかし、花を咲かせ蜜を作る。仏教では無償の施しを「布施」という。花蜜はまさに彼岸花の布施であり、お彼岸の花にふさわしいと思う。大雨や猛暑に負けず、今年もがんばれ彼岸花！

住職 合掌

令和七年七月二十六日【土】（お施餓鬼）

灯籠供養を勤めました。今年は四人の僧侶にご助法頂き、無事に法会を勤めました。灯籠供養をお申し込み頂いた皆様、またお盆まいりでお世話になった皆様に厚く御礼を申し上げます。感謝九拝



しゅうきひがん とうばくようほうえ
秋季彼岸・塔婆供養法会のご案内（別紙参照）



来る 令和七年 九月二十三日（火曜日）秋分の日

午前十一時より

どなたでも塔婆のお申し込み、当日のご参拝は出来ます。案内状をご参照頂き、宜しければお参り下さいませ。（昼食、大黒饅頭をお接待致します）

住職の独り言

お盆まいりで各檀家様より、慈明院開山五十周年の志納金をご寄付頂きました。お陰様で営繕事業の目標金額を集めさせて頂く事ができました。紙面を借りて御礼申し上げます。十月より大師堂の営繕工事を始めます。



令和七年十月二日（木）福岡の古刹・恵光院（福岡市東区馬出五丁目三六一三五）において、お釈迦様の涅槃図の絵解きが行われます。時間は十時半と十三時からです。恵光院秘蔵の文化財・大涅槃図が特別公開されて、その涅槃図を解説しながら、御詠歌や読経が合わせて披露されます。福岡の真言宗寺院の檀信徒研修会です。観覧無料、興味のある方は住職までご連絡下さい。

じみょういん

慈明院（〒八一一一三三 福岡市早良区大字西二三四一・二〇）

TEL（〇九二）八〇四・四五七〇 FAX（〇九二）八〇四・四六〇五

よしずみだいじ

住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇・（五二八一）・七四九四